

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
203	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Dose-response relation between volume of drinking and alcohol-related diseases in male general hospital inpatients. 総合病院の男性入院患者における、飲酒量とアルコール関連疾患との量的関係について	
執筆者	
Lau K, Freyer-Adam J, Coder B, Riedel J, Rumpf HJ, John U, Hapke U.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol & Alcoholism. 2008 Jan-Feb;43(1):34-8.	
キーワード	
飲酒量、アルコール関連疾患の危険性、入院患者、男性	
要 旨	
<p>目的： 飲酒量と疾患の量的関係についての今までの研究は、単一疾患を対象としていた。従って、今までは、飲酒量とアルコールが原因となるあらゆる疾患の危険性との関連は、ほとんどわかっていない。この研究の目的は、1日の飲酒量 (&gt;120g、61-120g、31-60g) から予想されるアルコール関連疾患の危険性 (AAF s) はどの程度かを調査することである。</p> <p>方法： ドイツ北西部の4つの総合病院から選ばれた18-64歳の入院患者805人を対象とした。対象者を3つの群 (AAF=1、AAF&lt;1、AAF=0) に分類した。アルコール関連変数、喫煙状況、特性について、群間の違いを解析した。AAF=1群とAAF&lt;1群で疾患の危険性を予測するために、多変量ロジスティック解析を実施した。</p> <p>結果： 我々の対象のうち、入院患者の26%がAAF=1を呈し、20.2%がAAF&lt;1であった。&gt;120gの飲酒患者群と61-120gの飲酒患者群は、31-60g飲酒患者群と比較すると、AAF=1の疾患に対するオッズ比が有意に高値であった (オッズ比 (OR) =6.30、95%信頼区間 (CI) =3.55-11.26、OR=2.91、CI=1.64-5.13)。AAF&lt;1の疾患に関しては、&gt;120gの飲酒患者群で、31-60g飲酒患者群と比較して、有意に高いORを示した (OR=1.97、CI=1.15-3.37)。</p> <p>結論： 総合病院の入院患者から選出した今回の対象では、飲酒量とAAF=1の疾患のリスクとの量的関連を認めた。</p>	